



## ないしょばなし

ねん くみ ( )

トモエと ミサキは なかよしです。がっこうでも、ほうかごでも、いつも いっしょに あそんでいます。

「ねえ、きいて。わたし、きのうから バレエを はじめたの。」

ミサキが、トモエの みみもとで はなしはじめました。

「ええっ、バレエ。すごい！ バレエって、からだ が やわらかくないと できないんじゃないの？」

「うん。でも わたし、まだ からだ が かたくて うまくできなくて はずかしいから、みんなには いわないでね。」

「もちろんだよ。」

ミサキはまいにち、トモエの みみもとで バレエの はなしを つづけました。

あるひ、トモエが げこうの じゅんぴを していると、ともだちの カナが はなしかけてきました。

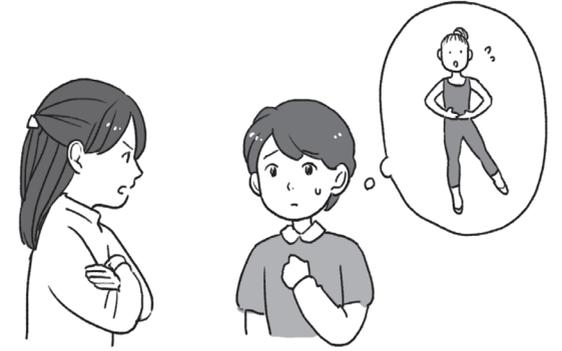
「わたしの わるぐちをいうの、やめてくれない？」

「ええっ？ わるぐちなんて いってないよ！」

「だって いつも、こっちを みながら、ないしょばなしを しているじゃない。わるぐちじゃないんだったら、なんの はなしを していたのか、おしえてよ。」

「それは——。」

カナの わるぐちなんて、ぜんぜん いっていません。  
でも、バレエのことを はなせば、ミサキとの やくそくを やぶってしまうことになってしまいます。



トモエは、バレエのことを いうべきでしょうか。あなたのかんがえと りゆうを かきましょう。

---



---



---

はなしあって かんがえたことを かきましょう。

---



---



---